

友和

NO. 573

発行日 令和7年1月1日

発行 社会福祉法人 友和の里

〒738-0203

広島県廿日市市友田 218-38

TEL0829-74-2157 FAX0829-74-2154

HP : <http://yuuwanosato.com/>

発行者 常務理事 下川真稔

明けまして
おめでとう
ございます

文字：土田 健二

明けましておめでとうございます

昭和57年4月に通所施設を開所して43年目を迎えた今年の元旦でした。社会福祉法人友和の里は、これまで皆さまから実に多くのご支援をいただきながら歩んでまいりました。自宅とは異なる生活空間での日々は、利用者さんにとりまして不安や生活のしづらさが付きまといがちです。そうした中、職員は、話し合いながら、工夫を重ねながら、ソフト面・ハード面でのより快適な場作りに精いっぱい取り組んでいます。

今年は今和8年度開所予定の「(仮称)第三グループホーム」建設を進めます。また、利用者さんに寄り添う支援の質の向上をめざしていきます。同時に、法人運営の透明性を高め、さらなる健全化を図ります。

自らの宿題を3点連ねましたが、それらを実現するためには地域の皆さまとのつながり、ご理解、ご協力が不可欠と考えています。本年もお導きいただきますようよろしくお願い申し上げます。

(理事長 河野 義刀)

ひがえり旅行



12/4 に半兵衛庭園へ旅行に行きました。天候にも恵まれて庭園は色鮮やかな紅葉でとても綺麗でした。庭園をいくつかの班に分かれて散策し、利用者さんも辺りを見渡して笑みが見られました。

郡司さんは紅葉を見て「あか!みどり!きいろ!」と言いながら職員を庭園の好きなところへ連れて行って下さいました。食事ではお肉や魚が柔らかく、牡蠣フライや鯛めしなど旬な食材が使用されておりとても美味しかったです。星川さんは一番窓側の紅葉の見やすい位置で食事をされました。一品一品ゆっくり味わって召し上がり和やかな表情を浮かべておられました。自分で選んだ黄色い洋服も景色と合いお似合いです。時間に余裕がありましたのでゆっくりと召し上がる事が出来ました。声が出る方もおられましたが、のんびりと畳に横になられたり窓からの景色を堪能されたりと皆さん満喫されておられました。

(生活支援員 玉田 淳也)

入所部個別支援計画書・モニタリングについて

入所部では 12 月個別支援計画書のモニタリングを行いました。ご利用者の方、生活支援員、栄養士、看護師、サービス管理責任者で行っています。会議前にお声掛けして、モニタリング参加について説明をするのですが緊張気味になる方や楽しそうな方、色々な表情がありました。会議中にウトウトしたり、緊張のあまり部屋からすぐに出たい方、終わっても出たくない方、皆さん色々な参加をされています。

ご本人の意思を確認するのは、困難だと思う事も多くあります。関係者で色々意見を出したり、サービスが出来ているか確認したり、共有し引き続き個別支援計画書を基に支援をおこないます。分からない事も多く悩む事もありますが、モニタリング時に利用者さんが一緒に参加する事で会議が和やかになり職員の皆さんが良い笑顔で会議が行えるのは、他の会議ではない事だと何だかほっこりします。(入所部長 浜先 ひろこ)



春における花壇づくり

今年もチューリップの球根をうえました。入所部から堀江さん、通所部からも数人お手伝いしてもらって、わいわいにぎやかな植え付け作業になりました。作業風景を少しご紹介します。

いつも脇に挟んでいる雑誌をそばにおいて、ショベルをつかって土堀をしてくれたのは大黒さんです。チューリップの球根を植えながら、「千の風になって」の鼻歌をうたっていたのは野島さん。「チューリップの球根は頭が上にくるんよー」と職員が何度も言います。でも球根の頭などおかまいなく穴の中へ投入されてしまうのですが、それを堀江さんがひとつずつ直してくれていました。無事、200球近い球根を植え付けすることができました。(地域交流支援員 ヒューガノリコ)



貝通し班

採苗器作りや豆管入れをコツコツやっています。真面目に黙々と手を動かし、時には他愛のない事で笑い声が聞こえてくる、そんな作業時間です。

さて、今月は川本さんをご紹介します。川本さんは、とても礼儀正しく、几帳面で真面目な方です。作業の合間の休憩時間、職員が水を持って「お疲れさまです」とお声かけすると、「お疲れさま」と返してくださいます。椅子が出たままになっていたらきちんと戻し、窓も開けっぱなしになっていたらきちんと閉めてくださいます。作業時間も、黙々と時間いっぱい取り組まれます。そんな川本さんを尊敬し、これからも一緒に日中活動していけたらと思います。
(生活支援員 冠 茜)



陶芸班

新年あけましておめでとうございます。昨年は陶芸班の干支の置物をたくさんの方に購入して頂きありがとうございます。今年も引き続き作成していきますのでよろしく願います。12月は佐伯地域の事業所等に干支の訪問販売へ行ってきました。初めは緊張して声が出なかった利用者さんでしたが、その後ニコニコ笑顔でお金の受取りや、商品の受け渡しを行なうことができました。緊張した！いっぱい売れた！など、とても嬉しそうでした。
(生活支援員 堂面 なみ)



創作班

今月は寺尾さんについて紹介します。ここ最近の寺尾さんは夏以降いつものとは違う様子がみられ始めました。今まで通りよりも新しいことを希望されたり、意思表示が強くなってきていると感じています。そこで、支援者としての活動内容を本人に選んでもらうてから提供するようになっています。現在、作業内容はゴム入れを選択されています。こうした意思決定支援を通じて寺尾さん本人に寄り添っていきたいと思います。
(生活支援員 寄尾 博孝)



療育班

友和の里の畑に行つて土に触れたり、スコップなど道具を使ってみました。運手の木原さんたちと一緒に育てた野菜を収穫して、一輪車で運んだりしながらいい運動にもなりました。今後もみなさんで畑を使った活動をしていけたらと思います。
(生活支援員 永見 貴一)



さくひんてんじ

先日、佐藤和子さんとダイハツ広島販売大竹店へ外出しました。目的は、ダイハツに期間限定で展示してある佐藤さんの刺繍作品を見に行くためです。佐藤さんが「お母さんの木」と名前を付けた作品は「アートルネッサンス 2023」に入選した作品です。ご本人に見学に行く日を予めお伝えしておく、その日は朝から普段よりオシャレをして待っておられました。自分の作品がお店に飾ってあるのを見る佐藤さんの表情は少し誇らしげで、普段、写真撮影は遠慮される事が多いのですが、この日は穏やかなほほ笑みで応じてくれました。

自室で黙々とクロスステッチをして出来上がる作品は、下絵の図案はなく、佐藤さんの頭の中のみにあります。普段は寡黙な佐藤さんですが、表現される作品はとてもカラフルで見ているこちらがウキウキするような作品ばかりです。コミュニティーハウスにも佐藤さんの作品が常設してありますので、機会があれば是非ご覧ください。（主任 川久保 貴子）

※広島市にあるNPO法人ひゅーるぼんのアートレンタル事業『しあわせプロダクツ』の要請を受けて作品展示をしました。広島県内にあるダイハツ販売店では障がいのある人たちの絵画作品の展示をしています。



感染症対策研修

12/17(火)にフレンドホームにて広島県西部保健所保健課から講師を招き研修会を実施しました。講義を聞き、その後より実践に近いシチュエーションで演習を行いました。研修は実際に施設でいつも用意している嘔吐物処理キットを使用して行いました。

事前に状況を想定し行いましたが、段取り通りいかなかったり、協力者との連携が上手く取れない等課題が沢山出ました。頭では理解していても、実演となると上手くいかないものですね。終了後講師からは、職員が機敏に動いていた点や「利用者さんと一緒に行くことで、利用者さんの練習にもなった」と講評をいただきました。これからウイルスが増えてくる時期です。「持ち込まない」「持ち出さない」「拡げない」を念頭に置き、利用者、自分自身を守りながら支援を行なっていきたいと思います。【ワンポイント情報】講師より、コロナウイルスの拡大傾向時期は、夏と冬の2季が多い傾向にありこれから増えてくる時期です。みなさんお気をつけ下さいね。（生活支援員 山田 憲志）



おわかれ

フレンドホームの朝倉一恵さん(59歳)が11/29に亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。



飲んだり食べたりが大好きだった一恵さん

開所日ワクワク通信

11月の開所日はクリーンウォーキングをしました。歩ける人は遊歩道や駐車場へ、歩行に不安のある人は建物周辺で作業をしました。落ち葉やごみを拾って歩いたり、風にふかれて舞っている落ち葉をほうきで集めていきました。ホール前ではたくさん落ち葉が集まったので、喜ぶ人もいました。李さんは、箒をもってもらいましたが、いつも抱えているくまのプーさんは、そのまま抱きかかえたままのスタイルでした。（生活支援員 濱田吉弘）



みいつけたっ、〇〇さん！

ある朝、きれいに紅葉していたもみじ（通所部前広場）が散ってしまいました。赤ヘル帽子をかぶった北村さん、どこからともなく箒を手にもって落ち葉を集めてくれていました。



掃除前



12月朝の風景

あながと
おながと



～アート活動に参加して～

アート活動を通して、支援をしていて良かったと感じる事があります。それは利用者さんの新たな一面を見る事が出来た時です。沖田さんはいつも体を動かすことが好きで、これまでも絵や作品を作る際もじっと出来ずに参加できないことがありました。先月のアート活動では沖田さんのしたい事を選ぶ形で行うと、ソファに座り文字を描いてくれました。刷毛を手に取り横一列に思いっきり「せ」の文字を描く姿は本人らしくとても新鮮でした。青色のみを使用していたのでこちらから他の色を用意しましたが青色を選ばれました。沖田さんが青色が好きなのが伝わりました。絵にはその方の性格が現れる為とても面白いです。良い所を秘めている利用者さんはたくさんおられます。良い所を上手く引き出せるようにこれからも支援していきます。（生活支援員 玉田 淳也）

令和6年度 第2回施設内虐待防止研修

12/14(土)に施設内虐待防止研修を行いました。講師にコンサルテーションサポート森の入り口・金丸博一様をお招きし、「職員同士が支え合う会議について」スーパービジョンという職員同士が支え合う手法について講義をしていただきました。2名の職員から日々の悩みを議題に出して頂き、実際にその議題を基に金丸講師を中心としてスーパービジョンを取入れ会議しました。様々な意見が飛び交い有意義な時間となりました。また、誰一人として欠かせない職員集団とも学ぶことが出来、職員全体でチームワークよく現場の支援に活かしていきたいと思えます。(主任生活支援員 池田 識彰)



※「スーパービジョン」とは、対人援助を行う人が、自分の担当しているケースについて第三者から助言をもらうこと。「SV」と略したり、日本語で「対人援助者監督指導」ということもあります。支援対象と自分の間で行き詰まっている問題を、第三者の視点から見てもらうことで解決の糸口を探すのが主な目的です

ケアと現場とつくること ～制作・展示・雑貨～ について学ぶ



11/21に、鞆の津ミュージアムの企画・会場展示を手掛け、キュレーター、生活支援員でもある津口在五氏(社会福祉法人 創樹会)が講師を務める研修に参加しました。テーマは芸術・アート活動の取り組み、障がいのある方、そうでない方のアートとの関わりについて。その中で私が興味深いと感じたのは、語りの起点としての「物」についてのお話でした。

例えば、日記を書き続けている人に「何故日記を毎日書いているの?」と問いかける。日記を書き続けているからこの問いかけができた=コミュニケーションが生まれる。「物」があるから話しかけるきっかけになる、という内容でした。この感覚には心当たりがあるとふと思いました。小学1年生になる我が子は物づくりや絵を描くことが得意で、空き箱やラップの芯、本人がかわいいと思ったパッケージなどを使って作品作りをよくしています。「これは何?」と問いかけると、嬉しそうに説明してくれます。その説明の後、「次は何を作ろうかな」とまた創作活動が始まります。何かしら作ったものを介して働きかけがあると次への意欲に繋がるんだと思います。

今回の研修では、次への意欲につながる声かけと、「物」がきっかけとなって次の物を生み出す希望が生まれるということを知ることができました。(生活支援員 冠 茜)



広原山だより その9



—令和7年版チームワークを！—

皆さまのおかげで社会福祉法人友和の里は新しい年を迎えることができました。「あけましておめでとうございます」。私自身も一昨年の暮れに大きな怪我をしまして法人に多大なご迷惑をおかけしたので冒頭の思いはひとしおです。

社会福祉法人友和の里に常務理事として入らせていただいたのは平成30年秋でした。利用者さんの個別支援の実態も具体も知らず、また、法人全体の知識も浅く、そんな状況で加わったのです。一人ひとりの利用者さんとどうコミュニケーションをとっていけばいいのだろうといったレベルからのスタートでした。

今にして思えば、理事長の「利用者に寄り添う」と言う一言に誘われたというのが正直なところで。しかしながら、今になって考えれば無謀と言うほかありませんでした。

朝礼で質の高い支援をと出勤職員に繰り返しています。実際に質の高い支援とはどういうことかと自問を続けながら。支援は保護者さんを含めた利用者さんと職員との間柄で成り立ちます。いわば、キャッチボールです。よくあるのが先ほども触れた声かけ。「きょうは元気?」「昼ごはんは何を食べたん?」といったごく日常的内容から始めました。合わせて、笑顔で肩に手を置いたり、ハイタッチをしたりしながら。この個人的なやりとりを私だけに留めてはいけないと担当職員や朝礼で反応を報告することもあります。

支援は利用者さんのその日のコンディションや心持ちによってこちらの対応を考えなければならない時も多くなります。ウンチが出ないために朝からイライラされているとか、近くにいた利用者さんの声が気になって落ち着けないとか。そうした時には職員のチームワークが試されます。

職員は私と異なり、日々、その中におられます。悠長なことは言っておられません。瞬時に対応を求め続けられています。頭の下がる思いです。

利用者さんとのキャッチボールの大切さに加えて、先月の研修で学んだもう一つの重要な視点があります。それは、実際の支援は各職員が行いますが、支援の質はチームワークによって大きく変わるものだということです。

そのためには、新しい年を迎えるに当たり、職員間の話し合いをもっともっと増やしていくこと。話し合いの情報には保護者さまからの最新の気かけやホットニュースなども仕入れておくこと。あたたかい視線が支援のカナメになること。自己肯定感と健康体を維持すること。それらに期待する令和7年の「社会福祉法人友和の里」の船出です。

笑顔や穏やかな表情がさらに広がる広原山でありますように。

(常務理事 下川 真稔)

ご寄付の紹介



中上由布子さま(元施設長婦人)

たくさんのご寄付を賜り厚く御礼申し上げます

1月 ぎようじよてい 行事予定

1/1(水) がんとん わかものかいししまいらいしよ 元旦 若者会獅子舞来所 (GH/FH)

1/2(木) やす ちゆうしょく お休み 昼食テイクアウト (GH/FH)

1/3(金) やす お休み

1/6(月) かいしよ か ぞ つうしよぶ 開所 書き初め (通所部)

1/10(金) しんねんかい 新年会

1/10(金) ゆうしょくかい 夕食会 (GH/FH)

1/13(月) せいじん ひ 成人の日

1/14(火) たの かい にゆうしよぶ お楽しみ会 (入所部)

1/18(土) つうしよかいしよび 通所開所日 とんど

1/22(水) にゆうしよぶ レクリエーション (入所部)

1/28(火) ゆうしょくかい にゆうしよぶ 夕食会 (入所部)

1/31(金) にゆうしよぶ そうじ (入所部)



作画 小西 邦彦

第26回全国3D アーチェリー大会



11/24(日) 全国 3D アーチェリー大会に宇吹伸二さん田中陽介さん田川直樹さんが参加しました。この大会はいつもの的ではなく、シカやたぬきなどの動物の立体物に矢を射る形式。それぞれ弓を手にもって、山の中を練り歩きながらの競技です。

足元が不案内な山の中、ときおり杖のように弓をもって歩いた田川さん。時々スタッフに注意される場面もありましたが、同じチームのメンバーと一緒に秋の紅葉シーズンまっただなかの山中を歩いて、気持ちよく参加されていました。同行された田川さんのご両親も、普段友和の遊歩道を歩かない田川さんが弓をしっかり持って山道を歩くのを見て、「目的があると歩けるんですね」と話されていました。

(地域交流支援員 ヒューガノリコ)